

ちよつといし話

～ 四 恩 ～

第 61 号で「恩」について話をしましたが、今回は少し付け加えさせていただきます。私達は毎日の生活で何かしら恩恵を受けております。どの様な恩恵かと申しますと、仏教にも諸説ありますが私は次の四つを選びました。天地の恩、国王の恩、父母の恩、衆生の恩です。

今回は天地の恩について説明します。我が国は毎年局地的に自然のなせる災害に見舞われています。自然の猛威が我々の生活を脅かしているのも事実です。ですから古来より山ノ神、陸の神、海の神、村の鎮守、等々の神々をお祀りし、自然に対する恐怖から少しでも離脱できるように、こぞって祈りを捧げる事により、天地の恵みを戴きたいと願い神仏に対し礼節を尽くしました。現在では生産に携わる方、以外で五穀豊穰を願い参拝される方は非常に少ないと思います。実際天地の恵みが無くなり、あらゆる産物の出荷が止まったとしたら、私達は一日も生活出来ません。生産には自然の環境がとても大切です。國は不法投棄を止めよう、環境に優しく、と叫ぶ、しかしながら文化はゴマカシが多く数年後には公害になる物も多々見受けられます。文明は字の如く明るい未来に向かって発展する物が多いと思われれます。我々の消費が経済を助けるも、物を大切にしなければ環境の保護は出来ないし、勿論天地の恩を味わう事も無い。文化よりも文明を大事にしたいと私は思います。人の所作は心に左右されます。第 26、27 号参照。我々が生活する中で一番忘れ易いのが自然法爾の姿です。私の娘が小学校 1 年の 3 月 21 日に書いた詩が面白いので紹介します。「ああ、春のあしおとがきこえる、あそこで、さくらのつぼみが、ふくらんでいる、こっちでたんぼぼが、さいている、かぜもなんだか、あったかい、わたしも春のなかまになりたいな、」子供の頃の感性を大人になっても持続させたいものです。皆で夏に水の災害が無い様に祈念致しましょう。 来来世世

善入院油掛地藏尊